

2017年度しあわせ研究

環境配慮行動がもたらす人々のしあわせに関する研究

研究員 高橋和枝
磯部孝行



地球温暖化や希少な資源の枯渇等、様々な地球環境問題を解決するためには、市民が地球規模で考え、地域で行動することが重要です。即ち、地球環境問題の解決には市民の環境配慮行動が不可欠と言えます。しかしながら、環境配慮行動が、個人の利益と一致しない場合、環境に良いからという理由だけでは選択されない場合もあり得ます。そこで、環境改善と人々のしあわせを両立する環境配慮行動を検討することとしました。

近年、さまざまな環境配慮行動の中、特に注目されている「都市鉱山」と呼ばれる高濃度でレアメタルや貴金属を含むパソコン、携帯電話やゲーム機等の小型家電のリサイクルを研究対象として選択しました。一方、2017年4月より、回収した資源を用いてオリンピックメダルを作るみんなのメダルプロジェクト（以下、プルジェクト）が始まりました。このプロジェクトでは、廃棄小型家電から得られる再生金属を100%使用したメダルを製造し、2020年の東京オリンピックで受賞者に授与することを計画しています。この活動は、環境配慮

型オリンピックにつながるだけではなく、市民が準備段階から参加しつつ、リサイクルの意義も実感できるため、リサイクルが推進されることが期待されています。しかしながら、まだプロジェクトは1年目であり、回収量は、目標には至っていないのが実情です。

本年度の研究では、このプロジェクトについて調査しました。まず、インターネットアンケートにより市民の意識調査をした結果、2018年1月時点でプロジェクトを知っている市民は、約3割と多くないことが明らかになりました。しかし、プロジェクトについて解説を行うと、協力したいとする市民が7割を超えることも明らかになりました。即ち、適切な環境情報を提供することで、行動変容をもたらす可能性があります。さらに、関連するリサイクル現場の調査を行った結果、①回収量がまだ不足しており、②プロジェクトで回収した小型家電を分別管理する手間がかかっていること等の課題を抽出できました。

今後は、期待される環境負荷削減量をライフサイクルアセスメント等により定量化し、環境影響の見える化が、人々の行動選択にいかにかつ与するのかを明らかにしていきます。最終的には、「しあわせなリサイクル」を提案することを目標とし、研究を継続しています。